

平成23年2月10日『県政タウンミーティング(中野市)テーマ:付加価値の高い農業の推進について』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
参加者発言内容	知事等発言内容		
<p>【TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)について]</p> <p>多くの農家が不安を抱いている。絶対に阻止するよう国に要請してほしい。</p>	<p><知事> TPPについては、慎重な上にも慎重な対応が必要。国で今後の農業政策を検討しているところであるが、日本の特質を見極めた上でやっていく必要があると思う。</p>	<p>・国に対しては、平成22年11月10日に、「十分な検証と国民的議論を尽くし慎重な対応を行う」旨の知事要請を行ったところ。現在、庁内に連絡会議を立ち上げ、県の対応等を検討しているところであり、引き続き、ご意見の趣旨や国の検討状況等も踏まえながら、適時、国へ提言を行ってまいります。</p>	<p>農政部 農業政策課</p>
<p>【付加価値の高い農業施策について]</p> <p>付加価値を付けて、どのように食べていける農業にするのか、道筋をつけてほしい。平成19年に作成した計画では、TPPは想定外だったはず。見直しには、地域の意見にしっかり対応しながら進めてほしい。</p>	<p><知事> 今後5年とか10年という期間で、農業の問題等をしっかり方向づけをして、資源の集中化や県民との共有目標を明確にしていく必要がある。</p> <p><萩原農政部長> 必ずしも投資をしなければいけないのではなく、消費者側の気持ちを考えた生産をすることで付加価値は付くのではないかと。TPP等の問題は想定より早く進んでいる。皆さんの意見を聴きながら見直していきたい。</p>	<p>食品産業ティアアップ産地育成事業 ・付加価値の高い農業を進める上で、農業者自らが、食品事業者や一般消費者など、消費者サイドのニーズを把握した上で、先を見据えた生産・販売方法を選択していくことが必要であるため、平成23年度は従来の卸売市場への流通ルートに加え、食品産業との契約取引など様々な流通ルートを開発することとしています。 なお、TPPを含め、新たな社会情勢の変化に対応した農業・農村の振興方向については、「食と農業農村振興計画」の見直しの中で、地域のご意見も伺いながら、検討を進めてまいります。</p>	<p>農政部 農業政策課</p>
<p>【6次産業化と元気づくり支援金について]</p> <p>「ぼたんこしょう」を作っているが、形の悪いものを二次製品にする6次産業化を考えている。そうしたときの施設整備に元気づくり支援金で応援してもらえないか。</p>	<p><知事> 市町村向けの支援金は、県と市町村が対等・協力の関係の中であり方を検討していく必要がある。 団体向けの支援金は、悪い制度ではないが、今までの形が良いのかは、議論すべき。地域活動の応援のあり方は、補助金以外にも充実すべき。</p> <p><萩原農政部長> 6次産業化は必要なもの。県としても商品化のご相談に応じる仕組みをつくっている。加工施設については、応援する方法がいくつかあるので、相談いただきたい。</p>	<p>・平成23年度についても、引き続き「地域発 元気づくり支援金」を実施いたします。</p> <p>・農業農村ビジネス支援事業(アグリビジネス講座、アグリビジネス加工技術支援、アグリビジネス商品確立支援)を実施し、商品の加工・販売等をサポートすることにより6次産業化を支援してまいります。 ・加工施設については、国庫補助事業において複数のメニューが用意されているため、それぞれの目的に即した事業を照会してまいります。</p>	<p>総務部市町村課</p> <p>農政部 農業政策課 農産物マーケティング室</p>

平成23年2月10日『県政タウンミーティング(中野市)テーマ:付加価値の高い農業の推進について』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
参加者発言内容	知事等発言内容		
<p>【生業(なりわい)としての農業について(その1)】</p> <p>生業としての農業の規模や所得ベースをどのくらいと想定しているか。「農村社会」のイメージとはどんなものか。</p>	<p><萩原農政部長></p> <p>県は農家一戸当たり500万円を目標とする。農村については、共同作業等が十分機能できるものを目標としており、共通財産である用水路や農道を守っていきような集落を支援していきたい。</p>	<p>・地域社会を支える農業・農村の維持は極めて重要と考えています。特に中山間地域の農村社会においては、インフラや医療・福祉など、様々な分野での連携や支え合いが重要ですので、農業サイドにおきましては、中山間地域直接支払事業や農地・水保全管理支払事業などにより、集落の方々が共同して地域を守っていく取組に対し、引き続き支援をまいります。</p>	<p>農政部 農業政策課</p>
<p>【生業としての農業について(その3)】</p> <p>農業を生業として成り立たせ、新たな担い手を育成していくには、農家一戸当たりの所得でなく、1人の所得で考えるべき。県の農業をどうするかということも大事だが、日本の食糧問題をきちんと考えて、農業者がどう立ち向うか、道筋を立てることが大事ではないか。</p>	<p><知事></p> <p>農業で生活を成り立たせていく時に、どういう単位で、どういう形態を想定するか十分念頭におきたい。将来ビジョンを掲げて、皆さんの知恵と力を結集してことが重要。これからの計画策定にあたっては、根源的なところまで掘り下げて考えていきたい。</p>	<p>・農業者の所得目標については、県内における認定農業者の経営目標値として示す農業経営指標において、1人当たりの所得目標を提示しているところですが、平成23年度に予定している指標の見直しの中でも、ご意見の趣旨を反映してまいります。また、今後の食糧問題も踏まえた対応等につきましても、県農業基本計画である「食と農業農村振興計画」の見直しの中で、ご意見の趣旨が反映されるよう努めてまいります。</p>	<p>農政部 農業政策課</p>
<p>【農村交流について】</p> <p>都会の職業をリタイヤした人を農村に呼び込んで、都会と農村地域が密接に関わることは大事だと思うので、行政に旗振りをやってほしい。</p>	<p><知事></p> <p>都会と農山村が交流して補完関係をつくったほうが良いと思う。4月に「移住・交流推進本部」を設置するので、県全体でいろいろな形の都市と農山村の交流を進めていきたい。</p> <p><萩原農政部長></p> <p>飯田市や飯山市では農村交流を積極的にやっており、そういった動きは活発化している。いろいろな工夫はできると思うので、ぜひ相談していただきたい。子ども達に対しても、一連の農作業を体験してもらうような事業を展開していきたいと考えている。</p>	<p>・長野県グリーン・ツーリズム協議会と連携したグリーン・ツーリズムの取組み、長野県学習旅行誘致推進協議会と連携した子ども達の農業体験の受入れ(子ども農村漁村交流プロジェクト)などにより、都市と農村の交流を引き続き進めてまいります。</p>	<p>農政部 農業政策課 農産物マーケティング室</p>

平成23年2月10日『県政タウンミーティング(中野市)テーマ:付加価値の高い農業の推進について』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
参加者発言内容	知事等発言内容		
<p>【少子化について】</p> <p>地域の活性化には子どもが大勢いるということが前提であると思う。今から人口が増えるような取り組みをお願いしたい。</p>	<p><知事></p> <p>人口が減少する社会を後ろ向きに考えるだけでなく、ポジティブに捉えることも必要。 中長期的には都会の方が長野県より高齢者が増え、財政運営は厳しくなる。長野県は新しい人口減少社会のモデル地域をつくれる可能性がある。</p>	<p>・安心して子どもを生み育てられる社会を目指して、ながの子ども・子育て応援県民会議の幅広いネットワークにより、地域の助け合いや仕事と家庭の両立など、連携と協働による様々な子育て支援に取り組んでいます。</p>	<p>企画部 企画課</p>
<p>【農業の担い手について(その1)】</p> <p>物を作る、食べる、感じる、人に喜んでもらえるという感動が農業の魅力。もっと魅力を感じることができるよう、学校で農業という授業を設けたり、楽しさの原点に戻った中で何かできるのではないかな。</p>	<p><知事></p> <p>自然と接する中でしか体験できないことはある。少し広い視点で考えていかなくてはいけない。 農山村体験は、教育という側面が大きいので、農業体験をやっている団体への支援等、教育委員会と農政部と一緒に取り組んでいきたい。</p>	<p>・小・中学校では、総合的な学習の時間等で水田での稲作、畑での野菜栽培を実施しています。植え付けから収穫まで一連の学習に取り組んでいます。今後は、地域との連携を一層深め、人材の活用等を通して、体験の充実に取り組んでいきます。</p>	<p>農政部 農業政策課 教育委員会事務局 教学指導課</p>